

オックスフォード大学共催グローバル気候サミット（6月4日～7日）でのヴォルカー・テュルク国連人権高等弁務官の挨拶

2025/06/04

国連人権高等弁務官事務所

「すでに、環境危機は恐るべき規模の人権侵害を生み出している。世界気象機構による新たな報告書では、約70%の確率でここ5年の気温上昇幅の平均が産業革命前と比べて1.5度以上*になると予測されている。行く先々で、若者や子どもが、取り返しがつかないほどの大きな損失を招くかもしれないと、将来への不安を口にし、私利私欲が公共の利益を破壊していると言うのを聞く。薄弱で支離滅裂なリーダーシップ、空虚な約束が、こうした略奪を可能ならしめている。環境、経済、社会そして個人々人へのプレッシャーはますます高まり、爆発寸前になりかねない。しかし、私は希望を確信している。私たちは人類と自然を守るための変化を成し遂げることができる。このサミットで、今から聞く先住民族、環境人権擁護家あるいは科学者からの話は、私たちを具体的な行動に駆り立てるだろう。公平で持続可能な気候変動対策を導くために、より効果的な気候ガバナンスの必要性を訴えている COP30 議長国のブラジルから、あるいは環境破壊を国際司法裁判所に提訴するよう自国政府を動かした太平洋諸島の学生たちから。このサミットで、私たちのメッセージと主張をさらに拡張し、気候正義のために共に活動し、政府や企業にさらなる行動を迫ろう。共に立ち上がろう、今、ここで」。

*パリ協定では、産業革命前と比較して「1.5度」を気温上昇の抑制目標と定めている。

【記事全文】

[Co-hosting a global summit, Türk calls for new policies to deliver climate action, justice and human rights](#)